



2011-10-07

No.12 (2011 vol. 2)

日本情報科教育学会ニュースレター

Japanese Association for Education of Information Studies

事務局：〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-14-2（新陽ビル7階）

TEL：03-5155-7576 FAX：03-5155-7578

E-mail jimu@jaeis.org <http://jaeis.org/>

第4回全国大会開催にあたり大会実行委員長よりご挨拶

西端律子（畿央大学教育学部）

2011年3月11日東日本大震災の発生により、被災された皆様にお見舞い申しあげますとともに、被災地の一刻も早い復興をお祈りしたいと思います。当初、第4回全国大会は茨城大学にて例年通り6月に開催される予定でした。しかし、実行委員会からの報告を受けやむなく中止となり、時期と場所を変えての開催を急ぎお引き受けいたしました。

第4回全国大会は、文部科学省をはじめ、奈良県教育委員会、広陵町教育委員会、奈良県高等学校情報教育研究会からのご後援、多くの関連学会や団体からご協賛をいただきました。公務お忙しい中、ありがとうございました。1日半という例年より短縮した日程ですが、基調講演、招待講演、企画セッション、パネルディスカッション、そして41件の一般発表と9件のポスター発表と多くのプログラムが予定されています。ご発表の会員の皆様、ご参加の皆様には厚く御礼申し上げます。

企業展示にも12社13ブースお申込みいただき、広告（5社）や寄付（2社）も頂戴いたしました。また、近隣の諸企業からもご支援いただきました。本当にありがたい限りです。

さて、本大会準備の真ただ中、台風12号により奈良県、和歌山県に大きな被害が及んでいます。物理的に交通が寸断される折、現地の状況をtwitterやブログで伝える方、水位データをわかりやすくグラフ化される方など、多くの方が「情報」を復興の原動力に変えようとされておられます。

新教育課程では、情報のあり方、そして情報と人とのかわり方が重視されています。本大会が人と人をつなげる役割を再認識し、次世代に伝える機会になることを祈念しております。

大会テーマ：新教育課程を踏まえた情報科教育の展望

場所：畿央大学 〒635-0832 奈良県北葛城郡広陵町馬見中4-2-2 TEL 0745-54-1601

（交通案内は6ページをご覧ください）

日程：平成23年10月15日（土）～16日（日）

主催：日本情報科教育学会

共催：畿央大学

後援：文部科学省、奈良県教育委員会、広陵町教育委員会、奈良県高等学校情報教育研究会

協賛：日本教育工学会、教育システム情報学会、情報コミュニケーション学会、
電子情報通信学会教育工学研究会、情報処理学会コンピュータと教育研究会、
情報処理学会初等中等情報教育委員会、全国高等学校情報教育研究会、
大阪府高等学校情報教育研究会、大阪私学教育情報化研究会

本号目次

第4回全国大会開催にあたり大会実行委員長 よりご挨拶・・・・・・・・・・・・・1	第1回情報学教育推進コンファレンスのご案内・・・・・10
全国大会プログラム・・・・・・・・・・・・・2	大学入試センター試験出題科目についての要望・・・・・10
第4回全国大会ご案内・・・・・・・・・・・・・6	日本情報科教育学会九州・中国・四国支部第1回 研究会のご案内・・・・・・・・・・・・・12
情報学教育関連学会等協議会の発足と第1回 情報学教育推進コンファレンスの実施について・・・・・7	事務局からのお知らせ・・・・・・・・・・・・・12

第4回全国大会プログラム

第1日：10月15日（土）

- 12:45～ 受付
- 13:15～13:20 開会のご挨拶：西野和典（第4回全国大会企画委員長，九州工業大学）
- 13:20～15:10 一般研究発表
- 15:10～15:20 休憩
- 15:20～16:50 企画セッション（共催：教科教育研究部会）
テーマ：「情報科教育の発展のために
ー中学・高校・大学の接続とその新たな学力の涵養ー」
パネリスト：松原伸一（滋賀大学）
「情報学教育のK-12カリキュラム開発と大学への接続」
小泉力一（尚美学園大学）
「情報科と大学入試」
佐藤万寿美（兵庫県立西宮今津高等学校）
「高等学校における新しい教育課程編成の現状」
司会：岡本敏雄（本学会会長，電気通信大学大学院）
- 17:00～18:50 懇親会 会場：学内食堂
（懇親会終了後，五位堂駅まで貸切バスを用意しています）
- *企業展示とポスターセッションは13:20～16:50

第2日：10月16日（日）

- 9:45～ 受付
- 10:15～11:45 一般研究発表
- 11:45～12:50 昼休み
- 12:50～13:45 総会
- 13:45～13:50 会場よりご挨拶：
白石裕（畿央大学教育学部学部長）
- 13:50～14:10 基調講演：
岡本敏雄（本学会会長，
電気通信大学大学院）
「民主主義的国力の涵養と情報科教育ー新たな学力の創造ー」
- 14:10～14:50 招待講演：新井孝雄（文部科学省生涯学習政策局参事官）
「教育の情報化に対する文部科学省の施策」
- 14:50～15:00 休憩
- 15:00～16:30 パネルディスカッション
テーマ：情報科教育における教育の情報化
話題提供：永井克昇（文部科学省初等中等教育局視学官）
「これからの情報科教育と教育の情報化」
パネリスト：西野和典（九州工業大学）
「情報科教育と教育の情報化」
米田謙三（羽衣学園中高等学校）
「教科情報から新しい協働学習を実現する
～国内・国外 プロジェクト型学習の実践事例～」
司 会：寛捷彦（早稲田大学）
- 16:30～16:35 閉会のご挨拶
- *企業展示とポスターセッションは10:15～12:45



一般発表プログラム

- ・発表12分、質疑5分、入れ替え1分の予定です。
- ・複数の著者がいる場合、○は発表者です。
- ・最初の数字が1日目か二日目、アルファベットが会場、ハイフン後の数字がそのセッションでの順番を表しています。

【10月15日(土) 13:20~】

A会場：座長…鷹岡亮（山口大学）・西野和典（九州工業大学）

- 1A-1 情報科教育法における協調自律学習を取り入れた授業設計(2)
○高橋朋子（武庫川女子大学），望月紫帆（特定非営利活動法人学習開発研究所）
- 1A-2 情報科教育法において課題を作成させるブレンド型授業の実践
○宮地功（岡山理科大学），吉田幸二（湘南工科大学）
- 1A-3 SNSを活用した教育実習の実践について
松本宗久（大阪学院大学高校）
- 1A-4 情報処理科目における電子メールの返信が学生の意識行動に及ぼす影響
○立野貴行（岡山県立大学），加藤由樹（相模女子大学），加藤尚吾（東京女子大学）
- 1A-5 遠隔支援環境における学習者の学び方プログラムの検討
○鷹岡亮（山口大学），霜川正幸（山口大学），阿濱茂樹（山口大学），渡辺芳雅（誠英高等学校）

B会場：座長…武村泰宏（大阪芸術大学）・天良和男（東京都立日比谷高等学校）

- 1B-1 統計的な手法を活用した問題解決 - 教科横断的な授業の展開 -
天良和男（東京都立日比谷高等学校）
- 1B-2 分散处理的な見方・考え方のプログラム作成プロトコル分析
本郷健（大妻女子大学）
- 1B-3 RGB切換え器の製作および活用方法 -ユニバーサルデザインへの意識付けを狙って-
近藤敏文（愛知県立天白高等学校）
- 1B-4 初学者のアルゴリズム的思考における変数利用に関する一考察
○香山瑞恵（信州大学），佐藤亮（信州大学），伊東一典（信州大学），橋本昌巳（信州大学），大谷真（信州大学）
- 1B-5 「IPアドレスの計算」学習ソフトの開発(第一報):目標分析と教材設計
余田義彦（同志社女子大学）

C会場：座長…竹中章勝（清教学園中・高等学校）・稲川孝司（大阪府立東百舌鳥高等学校）

- 1C-1 ネットユーザーにおける名誉毀損の免責要件—情報モラル教材として—
田中規久雄（大阪大学）
- 1C-2 提案:情報社会における個人情報やプライバシー，肖像権を多角的に扱う—社会と情報「情報社会における法と個人の責任」に向けて—
生田研一郎（中央大学杉並高等学校）
- 1C-3 マンガを用いた情報倫理教育の実践と評価
○布施泉（北海道大学），岡部成玄（北海道大学），中村純（広島大学），牧野圭一（京都造形芸術大学）
- 1C-4 大学教員による小中学校における情報モラル指導
神月紀輔（京都ノートルダム女子大学）
- 1C-5 情報モラル啓発のためのプレゼンテーション制作の実践
河野稔（兵庫大学）
- 1C-6 コミュニケーションレベルを考慮したプレゼンテーション授業
稲川孝司（大阪府立東百舌鳥高等学校）

D会場：座長…杉崎忠久（奈良県立香芝高等学校）・佐藤万寿美（兵庫県立西宮今津高等学校）

- 1D-1 教科情報におけるプログラム言語学習のためのe-Learning教材の作成と活用
～高大連携と個別学習による「情報の科学」の授業へのアプローチ～
佐藤万寿美（兵庫県立西宮今津高等学校）
- 1D-2 スクイークEtoysを使った論理演算演算教材
室谷心（松本大学）

第4回全国大会プログラム

- 1D-3 問題解決に向けたスクイークEtoys等を活用した指導の一例
谷川佳隆（千葉県立船橋芝山高等学校）
- 1D-4 5パズルを用いたプログラミング実習の実践
○村田育也（北海道教育大学）， 広田高雄（大阪府立今宮高等学校）
- 1D-5 プログラミング教育のための視覚的ソフトウェア開発支援システム
杉田公生（東海大学）， 土田賢省（東洋大学）， 宮寺庸造（東京学芸大学）， ○夜久竹夫（日本大学）
- 1D-6 高大連携によるプログラミング学習の実践
○坂田圭司（東海大学）， 遠藤陵二（東海大学付属浦安高等学校）

【10月16日（日）10：10～】

A会場：座長…中條道雄（関西学院大学）・西田知博（大阪学院大学）

- 2A-1 大学におけるオープンソース・ソフトウェア開発教育の取り組み
○後藤隆彰（電気通信大学）， 土田賢省（東洋大学）， 西野哲朗（電気通信大学）
- 2A-2 学習タイプ別e-ラーニングの実践ーLEBELの視点からー
○本田敏明（茨城大学）， 木村勤（茨城県利根町立布川小学校）
- 2A-3 畿央大学におけるCEAS/Sakaiの現状・活用事例報告
○大山章博（畿央大学）， 福森貢（畿央大学）， 西端律子（畿央大学）
- 2A-4 情報フルーエンシー及び関連概念の進展動向と展望
中條道雄（関西学院大学）
- 2A-5 文系学生に対する情報教育の実践と効果
五月女仁子（神奈川大学）

B会場：座長…坂井貴行（兵庫県立武庫荘総合高等学校）・香山瑞恵（信州大学）

- 2B-1 簡易マインドマップによる情報通信ネットワークに関する認識実態
ー大学1年生を対象とした調査よりー
村松竜（信州大学大学院）， ○香山瑞恵（信州大学）， 伊東一典（信州大学），
橋本昌巳（信州大学）， 大谷真（信州大学）
- 2B-2 教科「情報」は必要か-高校生の意識調査-
齋藤実（埼玉県立大宮高等学校）
- 2B-3 専門教科情報と産業界との連携について
亀山弘（岐阜県総合教育センター）
- 2B-4 ローカル化の情報技術カリキュラムを目指してー中国高校情報技術カリキュラムの課題ー
王保中（佐賀大学）
- 2B-5 大学生を対象としたインタビューによる日本の情報教育の問題分析
○辰己丈夫（東京農工大学）， 久野靖（筑波大学）， 加藤毅（筑波大学）

C会場：座長…鹿野利春（石川県立金沢二水高等学校）・村上徹（関西中央高等学校）

- 2C-1 論理的思考の表現に着目した教材の提案ーBITS PUZZLEを用いた授業ー
○村上徹（関西中央高等学校）， 米田謙三（羽衣学園中学校高等学校），
伊美聡（箕面学園高等学校）， 岡本弘之（聖母被昇天学院中学校高等学校），
奥林泰一郎（大阪大学）， 小池崇司（プール学院中学校高等学校），
松本宗久（大阪学院大学高等学校）
- 2C-2 インターネットの交流を通じた国際理解学習 -Meet the Globeプロジェクトの実践事例より-
○村上徹（関西中央高等学校）， 藪内貴聖（関西大学大学院）
- 2C-3 SD法を用いた感性マッチングシステムの国語科教育への応用
○尾池直哉（九州工業大学）， 山口真之介（九州工業大学大学院）， 大西淑雅（九州工業大学），
津森伸一（近畿大学）， 豊瀬仁須（田川市立田川中学校）， 西野和典（九州工業大学大学院）
- 2C-4 プロジェクトを通して育成する情報活用の実践力
後藤貴裕（東京学芸大学附属国際中等教育学校）

D会場：座長…江守恒明（関西大学中部・高等部）・山本恒（ICT活用教育研究所）

- 2D-1 フローチャートによるアルゴリズムの視覚化と検証システムの開発
山本恒（ICT活用教育研究所）
- 2D-2 中学校での教科「情報」の構築 - 専門的内容と他の学びを支える共通的内容の両立 -
○河野卓也（滋賀大学教育学部附属中学校），澤田一彦（滋賀大学教育学部附属中学校），
松原伸一（滋賀大学）
- 2D-3 情報技術を活用する情報学教育-3Dを利用した単元「これからの社会」の実践-
○澤田一彦（滋賀大学教育学部附属中学校），河野卓也（滋賀大学教育学部附属中学校），
松原伸一（滋賀大学）
- 2D-4 中学校における情報学から構成したICT活用教育の実践
○安谷元伸（滋賀大学教育学部附属中学校），河野卓也（滋賀大学教育学部附属中学校），
北村拓也（滋賀大学教育学部附属中学校）
- 2D-5 中学校「技術・家庭」におけるシミュレータを使用したロボットによる感情表現活動
○神藤健朗（東京都市大学付属高等学校），関小百合（東京都市大学付属中学校），
藤田善弘（日本電気株式会社）

ポスター発表プログラム

- ・発表者の後の日時はコアタイムです。発表者がポスターの前に待機されますので、直接ご議論ください。
- ・ポスターの掲示は原則として学会期間中ですが、発表者の都合により前後することもあります。

- P01 女子高校生によるケータイハンドブックの制作と活用について
一情報科とのコラボレーションによる情報モラルの向上に向けて一
○宮之原弘（金城学院高等学校），加藤和幸（金城学院高等学校）：
15日（土）13：30～14：00
- P02 教師のためのICTリテラシー
高橋参吉（千里金蘭大学）：15日（土）14：30～15：00
- P03 小中学校の情報化を推進する「嘉麻市のサポート体制」
池田勇（嘉麻市教育センター）：15日（土）15：00～15：30
- P04 ダイナミックな構成・改編を可能とした情報モラル教材管理システム
○宮下和大（東京学芸大学），森本康彦（東京学芸大学），宮寺庸造（東京学芸大学）：
16日（日）10：30～11：00
- P05 クロスロードゲームを利用した情報モラル教育の可能性
野口聡（関西大学大学院），小阪知沙（関西大学），○村上徹（関西中央高校），
久保田賢一（関西大学）：15日（土）15：10～15：40
- P06 地理情報概念の自動認識システム
小笠原喜康（日本大学），○夜久竹夫（日本大学）：15日（土）15：00～15：30
- P07 情報Bプログラミング学習へのアプリ開発実例学習の活用
竹澤見江子（首都大学東京大学院）：15日（土）15：30～16：00
- P08 楽しく学ぶ，情報の科学的理解
野部緑（大阪府立寝屋川高等学校）：15日（土）14：50～15：20
- P09 iPadとmoodle, dlinaサーバの連携
○北野堅司（大阪府立東百舌鳥高等学校），稲川孝司（大阪府立東百舌鳥高等学校）：
15日（土）15：00～15：30

優秀賞の審査については，一般発表は論文内容と発表と質疑を，ポスター発表はポスター内容をそれぞれ対象とします。

企業展示・広告等

株式会社朝日ネット，アライドテレシス株式会社，株式会社内田洋行，開隆堂出版株式会社，
株式会社国際環境海商，株式会社CNK，実教出版株式会社，株式会社ナリカ，株式会社日経BP，
日本アイビルソフト株式会社，日本データパシフィック株式会社，日本文教出版株式会社，
株式会社BITS PUZZLE，株式会社ワークアカデミー（50音順）

第4回全国大会ご案内

諸費用

	本学会の会員	共催・後援・協賛団体所属の 教職員及び学生	非会員
大会参加費	1,000円 (教諭・学生：無料) * 証明書等をお持ち下さい	1,000円	2,000円
論文集代 (購入自由)	2,000円	2,000円	3,000円
懇親会 (参加自由)	3,000円	3,000円	3,000円
計	6,000円 (教諭・学生：5,000円)	6,000円	8,000円

全国大会の詳細

- ・詳細は、<http://jaeis2011.seikyo.ed.jp/> をご覧ください。
- ・すでに事前申し込みは締め切らせていただいております。これからお申し込みされる方は当日会場の受付まで直接お越しください。

会場校からのご案内

- ・大学周辺に宿泊施設はありません。大阪市内（難波，上本町周辺）にお泊まり頂くと便利です。
- ・大学周辺に飲食店，コンビニエンスストアはあります。16日（日）も学食はあいています（但し，昼食時のみ）。
- ・外部の方は大学構内のネットワークをご利用頂けません。必要な方は各自でご準備下さい。一部学食でのみ無線LANをご利用頂けます。
- ・発表者用のパソコン（Windows機）は用意しております。パワーポイント以外のソフトウェアを使われる方，Windows機以外をご利用の方は各自でご準備下さい。

会場への交通案内

近鉄・大阪線「五位堂駅」下車

- 1) 徒歩22分
- 2) 奈良交通バス（2番乗り場）「馬見中5丁目・畿央大学前」（約7分）＋徒歩3分・180円
- 3) タクシー5分・1,000円弱

* 下記時間帯に、五位堂駅改札口に学生がおりますので、詳しくはお尋ねください。

15日（土）11:00-15:00，16日（日） 9:00-13:00

近鉄電車時刻表検索：<http://eki.kintetsu.co.jp/norikae/N1>

奈良交通時刻表検索：<http://jikoku.narakotsu.co.jp/form/asp/>

敷地内および敷地周辺禁煙です。喫煙所は全くありません。

喫煙される方は、近隣の飲食店をご利用下さい。

情報学教育関連学会等協議会の発足と 第1回情報学教育推進コンファレンスの実施について

情報学教育の推進に向けて
“Information Studies for All”

松 原 伸 一
情報学教育推進特別委員会 委員長

1. はじめに

2011年12月23日は歴史的な1日になるかもしれない。情報学教育に関連する学会・研究会が結集し、1つの組織が誕生する日になるからである。

現在では、“情報学”に関わる教育は、高校における教科「情報」の学習に根拠を置くと考えも良いかも知れないが、他の教科および他の校種（小学校や中学校）では、いわゆる“情報教育”が実施されているものの、“情報学”としての位置づけは明確ではない。

新しく誕生する組織は、このような状況を踏まえ、情報学教育（メディア教育、情報安全教育を含む）の一貫したカリキュラムを検討するよい機会を与えてくれることだろう。そこで、本稿ではこの新たな組織の誕生に至るまでの経緯を、筆者の今までの著述(1)をもとに簡単にまとめることにした。

2. 情報学教育の新しいステージへ

「情報学とは何か」と問いかければ、最先端の情報学者のみならず、各分野の学者・教育者を始め、産業界や行政などのあらゆる分野の賢者諸氏から、多様なご意見が降り注ぐことだろう。しかし、ここでの情報学とは、国語、数学、理科、社会、…のように、学校教育における教科としての内容学であり、教科教育の内容論として位置づけられるものである。もちろん、先端科学も含めた研究領域としての「情報学」の成果を学校教育に反映させることも重要であるが、両者間に違いがあることを理解しておく必要がある。したがって、学習内容を決定する際には、両者の関係者が一同に会し、議論したり意見交換をしたりして、共通理解の上に成立する「一定の見解」が必要になるだろう。

筆者が言及する「日本版ウッズホール会議」とは、まさにそういう場なのである。そして、それを構成するための組織が、情報学教育関連学会等協議会なのである。

つまり、新しい学習内容を決めるためには、その分野の専門家や教育理論や実践の専門家に加え、幅広く議論し決めていく必要がある。多くの分野の、多くの人達に理解され、協力を仰ぐ形で進めることが必須であると考えている。

3. 関係する学会等の連携をめざして

3.1 日本情報科教育学会と情報学教育研究会との連携

情報科教育における学習内容として、これを明示的に、“情報学”をベースにするという考え方については、2005年8月8日付で中山斉彬文部科学大臣（当時）により任命を受けて、中央教育審議会の専門委員（情報）をお引き受けしたことがその契機となり、審議会等で会議を重ねるうちに、しだいに具体化したと記憶している。

表1（次ページ）は、情報学教育研究会と日本情報科教育学会との連携が始まるまでの経緯を示したものである。

当時は、まだ「情報」を専門とする教科教育の学会はなかったが、情報の諸科学や教育工学等を基盤に、情報教育を範疇とする学会からの支援は、「要望書」という形で情報処理学会や教育システム情報学会などから、情報科教育の充実に向けて、ご協力をいただき、委員として心強い思いをした。しかし、概ね全ての他の教科は、教科教育の学会が存在し、教科の理念や位置づけなども含めて、恒久的に研究を積み重ねている。筆者は、このような状況の中で、

- (ア) 「情報」を専門とする教科教育の学会の設立
- (イ) 情報学教育の研究を理論的・実践的に行う組織
- (ウ) 情報科教育に関心を持つ諸学会の結集

が早急に必要であると感じたのである。言うまでもなく、（ア）は2007年12月23日に発足した日本情報科教育学会であり、（イ）は情報学教育研究会で、そして、（ウ）が情報学教育関連学会等協議会である。

表 1 情報学教育研究会と日本情報科教育学会との連携

年. 月. 日	情報学教育研究会	日本情報科教育学会 情報学教育推進特別委員会	備考
2002. 3. 16	情報科教育法研究会が発足		
2003. 9. 3	教科「情報」の実習事例, 発行		
2005. 8. 8			※筆者, 中山大臣より 中教審・専門委員の任命
2007. 12. 23		日本情報科教育学会, 発足	
2009. 11. 11	<u>情報学教育研究会</u> , 再発足 ※情報学教育の推進		
2010. 2. 27		<u>情報学教育推進特別委員会</u> , 理事会にて承認 ※情報学教育研究会との連携 を承認	
	※情報学教育研究会と日本情報科教育学会, 連携開始 (情報学教育に関連する学会と研究会との連携)		

情報学教育研究会（ISE研）の起源は、2002年に発足した情報科教育法研究会（JK研）である。JK研は、当時の緊急な必要性から「情報」という教科に特化して研究を推進するものであり、教科教育の性質を強くもっていた。一方、ISE研は、社会の変化に対応するため、“文理融合の情報学教育”をコンセプトに2009年11月11日に装い新たに再発足したもので、「情報」という教科に限定せず、これも含めて拡大させ、いわゆる“情報”を教える教育を研究対象としている。したがって、高校段階のみならず、その他の校種である小学校や中学校なども対象としている。もちろん、大学などの高等教育段階も当然、情報学教育の視野に入るものであるが、大学以降の教育では学習指導要領の制約を受けないので、現時点では初等中等教育段階を優先して研究対象としている。しかし将来、初等中等教育段階における情報学教育が充実するにつれて、大学等との接続を考える必要が生じることになると考えられる。このような経緯から、ISE研は、文理融合の情報学教育を理論的・実践的に行う研究会として活動が始められたのである。

一方、日本情報科教育学会では、情報学教育を特別に推進する委員会の必要性を生じ、2010年2月27日の理事会・評議員会において、特別委員会の設置が提案され承認されたのである。また、その際、情報学教育研究会との連携についても承認され、この時をもって、日本情報科教育学会と情報学教育研究会との連携が始まった。今から思えば、これは、情報学教育関連学会等協議会の原型と考えることもできるだろう。（日本情報科教育学会、2009年度第4回理事会・評議員会、議事録第3号議案を参照）。

3.2 情報学教育のこれから

(1) 情報学教育関連学会等協議会の発足と情報学教育推進コンファレンスの実施

この協議会は、加盟を表明をした順で示すと、日本情報科教育学会、情報学教育研究会、日本教育工学会、教育システム情報学会、及び、情報処理学会の5つの団体組織で構成される予定である。

また、情報学教育推進コンファレンスの概要は10ページの通りであるが、現在検討中の内容も含んでいる。したがって、詳細で正確な情報は、確定後にそれぞれの加盟学会・研究会より、同時に公表する予定であるので、新しい情報を入手されるようお願いしたい。このコンファレンスは、「情報学教育の新しいステージ」に関心をお持ちの方であれば、原則としてどなたでも参加できるので、ぜひ足をお運び願いたい。

コンファレンスの案内は、p. 10をご覧ください。

(2) 「日本版Woods Hole会議」開催の提案：

J. S. Bruner「教育の過程」に学んで

日本版Woods Hole会議については、既に提案している。ここでは、この提案の経緯も含めて、整理して述べることにする。表2のように、最初に提案したのは、早稲田大学で開催された情報処理学会のシンポジウムで招待講演を行ったときである。原稿にはその記述はないが、図1のように、講演で使用したスライドには、Woods Hole会議の紹介があり、この講演当時の2009年は、ちょうど50年目に当たり、何か記念すべき時期にあることも示唆している。その後、機会あるごとに提案喚起を行ってきたが、本年9月で2年半が経過する。“光陰矢のごとし”というが、時間の経つのは早いものである。

J. S. Bruner: "The Process of Education"
鈴木祥蔵, 佐藤三郎訳, ブルーナー「教育の過程」, 岩波書店, 1960

1957年 ソビエトのスプートニク発射の成功

- アメリカ社会, 特に, 学校教育に対して大きな影響
→「スプートニクショック」
- 当時のアメリカの教育が知的生産性の教育に著しく非能率とされ, その原因が当時の学校教育の体質(進歩主義)にあるとされた

1959年 全米科学アカデミー(NAS), 学会の第一人者を召集

- Woods Hole会議の議長を務めたブルーナー
- 独自の見解を加えた報告書

40

図1 J. S. Brunerの「教育の過程」

表2 筆者による「日本版Woods Hole会議」開催の提案に関する経緯

年. 月. 日	論文タイトル・講演題目等	発表場所
2009. 3.14	学習指導要領の改訂と情報科教育の展望 - 文理融合の情報学をベースに -	情報処理学会, 高校教科「情報」シンポジウム2009春, 招待講演(早稲田大学)
2009. 6.27	次期教育課程における情報科教育 パラダイムシフト:文理融合の情報学共通教育へ -「日本版Woods Hole会議」の開催を視野に-	日本情報科教育学会第2回全国大会 講演論文集(パネルディスカッション1), pp.13-16. (九州工業大学)
2009.12.23	新学習指導要領から見える情報科教育の新しい ステージ-文理融合の情報学共通教育-	日本情報科教育学会設立2周年記念 フォーラム(アルカディア市ヶ谷)
2010. 2.27	情報学教育推進特別委員会の設置について～ 情報学教育推進にかかわる中長期的な展望として(提案)	日本情報科教育学会第10回理事会・評 議員会(日本情報科教育学会事務局)
2010. 3. 1	クラウド型知識基盤社会における情報科教育の 新しいステージ -文理融合の情報学共通教育-	情報学教育研究2010, pp.5-24.
2010. 6.26	情報学教育のロードマップ - 中長期的な展望と して, 特別企画を開催するに当たって	日本情報科教育学会第3回全国大会 講演論文集(特別企画1), p.34. (日本 大学文理学部)
2010.12.23	新しい学力を身につけるための「情報科」の役 割・課題, 教員養成の立場から - 「情報科」教育 の質向上のためにやるべことは	日本情報科教育学会設立3周年記念 フォーラム(機械振興会館)
2011. 1.20	情報学教育の推進 - 中長期的な展望としての ロードマップを -	日本情報科教育学会誌, Vol.3, No. 1, pp.5-6.※発行年月日は, 2010.12.15で ある。
2011. 3. 1	デジタル時代の情報学教育論 "Information Studies for All"	情報学教育研究2011, pp.7-22.

4. おわりに

本稿では、情報学教育の新しいステージを目指して、関連学会等の連携を行う組織として「情報学教育関連学会等協議会」の発足に至るまでの経緯と、これからの課題として、「日本版Woods Hole会議」の開催に向けて筆者の考え方を示した。

文献

(1) 例えば, 次の著書を参照願いたい。

松原伸一：情報学教育の新しいステージ～情報とメディアの教育論，開隆堂，2011

第1回情報学教育推進コンファレンスのご案内

日時 2011年12月23日（金）祝日 14:30 - 19:30（予定）
場所 日本大学文理学部（東京都世田谷区桜上水3-25-40）

プログラム （予定）

14:00～14:30 受付

14:30～16:50 第1回情報学教育推進コンファレンス

- ・趣旨説明 議長より ※協議会発足の趣旨、今後の課題など
- ・挨拶 会場責任者より、加盟学会等より
- ・講演 新井孝雄氏（文部科学省、参事官）
- ・公開会議 ※パネルディスカッション方式

登壇者（予定）

永井克昇氏（文部科学省、視学官）

他に、各加盟団体より、登壇いたします。

18:00～19:30 懇親会

大学入試センター試験の出題科目についての要望

2011年9月5日

独立行政法人 大学入試センター

理事長 吉本高志 殿

大学入試センター試験の出題科目についての要望（その2）

日本情報科教育学会
会長 岡本敏雄

要望内容

貴センターにおかれましては、ご清祥のことと拝察申し上げます。

本学会は、2011年3月に貴センターにあてて、「大学入試センター試験の出題科目についての要望」を送付させて頂きました。その要望内容は以下のものでした。

その後、東日本大震災に関わるさまざまな事項の推移とともに、上記の要望事項につきまして、さらなる重要性が明らかになりましたので、この点につきまして先の要望を補足させて頂くとともに、重ねて要望実施に向けてのご検討を強くお願い致します。

以下に前回の要望理由の概略と新たな理由について記させていただきます。

平成21年度に告示された高等学校学習指導要領の必履修教科・科目である共通教科「情報」の2科目「社会と情報」と「情報の科学」を大学入試センター試験の出題科目にすることを強く要望致します。

【前回要望理由の概略】

1. センター試験は高等学校における基礎的な学習の達成度を測定するものと位置付けられ、その趣旨から必履修教科・科目である「情報」の出題が必須であると考えられる。
2. 過去に「情報」の出題が見送られた際に実験・実習が中心であることを理由とされていたが、実験・実習を伴う他教科の科目も現に出題されており、さらに新学習指導要領では「情報」の各科目に対する実習時間の縛りが削除されている。
3. 共通教科「情報」では現行学習指導要領における実習中心科目「情報A」に相当する科目が削除されており、「社会と情報」「情報の科学」の内容はセンター試験に耐える内容を十分に含んでいる。
4. 日本の将来のためにはソフトウェアの製造能力が不可欠であり、その土台となる「情報」の内容をセンター試験に導入し学力の達成度を測ることが必要である。
5. 望ましい情報社会の構築と維持のために、情報やネットワークの科学的知識と情報モラルの育成、およびPISA型の問題解決能力の育成を含む共通教科「情報」の内容は不可欠なものとなっており、これらの素養を身につけていることをセンター試験によって測る枠組みが必要である。

【追加される理由】

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、近年稀に見る災禍をもたらしましたが、併せて情報や情報技術がかかっていないほどに活用され、またその特質・帰結に対する理解の必要性を明らかに示したという点でも、過去に例を見ないものでした。そこから汲み取れる、センター試験での「情報」出題の必要性については、以下のように整理できます。

6. 情報・情報技術に対する理解が、緊急時にはとくに、個人の命運を左右するまでの存在となって来ている。

今回の震災においても、過去のたとえば阪神・淡路大震災と同様、固定電話や携帯電話によるは困難なものとなったが、インターネット技術とその上に構築されたTwitterなどの情報サービスは機能しつづけ、安否確認やその他の必要な情報交換に威力を発揮した。災害時には適切な情報の流通が人の命にまで関わり得る重要事であることは言うまでもないが、災害時には情報流通基盤の状況も平常時と同じではあり得ず、このため各個人が情報・情報技術に対する基本的なリテラシーと判断力を持ち、適切な情報手段を選択・使用できることが不可欠となる。また一方で、被災地の学校や組織が運用しているサーバなどは被災により運用を停止したり、稼働は続いていても「現地でなければ情報の更新が行えない」などの不適切な設計などにより、有効な情報流通手段として機能し得なかった事例が多く見られた。一方、クラウド技術の採用や遠隔地からの情報更新手段の確保により有効に機能し続けたサイトも存在し、これらと対照をなした。このような、各組織における情報基盤の設計における災害に対する配慮不足は、人による日常的な運用までを含む問題である以上、構築を担当した技術者だけの責に帰されるべきではなく、当該組織の担当者や責任者まで含めた、情報・情報技術リテラシーの向上を通じて対応されるべきである。このように、災害に代表される緊急時に対応可能な情報・情報技術に対する知識・理解を国民全体にわたって保証するためには、センター試験における共通教科「情報」の出題を通じて、当該内容に関わる学力の達成度を測ることが必要である。

7. 情報手段に対する適切な態度・姿勢が、平時はもちろん緊急時には、とりわけ重要である。

災害時にはデマに代表される誤った情報が往々にして人を間違った行動に導き、災難をいっそう増幅させ得ることは過去から知られている。しかし今日の情報社会では、ネットワークによる迅速な情報の流通・拡散がこの問題をいっそう大きくすることを、今回の震災は計らずしも示した。その代表的なものは、Twitterのリツイートによるデマの拡散と、チェーンメールによる誤った情報の流布であるが、これに対応するためには、平常時からネットワークなどの情報流通手段の特性とその上で起きる可能性のあるさまざまな問題やそれに対応する姿勢について考え、各自が確固とした姿勢・態度を身につけること以外にない。実際には、このような問題は既に教科「情報」の中に含まれて教えられており、その内容が国民に定着していれば、今回のような問題もかなりの程度防げていたものと想像される。このように、平時・緊急時を併せた情報手段の特性とそれに対する適切な態度を身に付けていることを確認する上でも、センター試験における共通教科「情報」の出題を通じて、当該内容に関わる学力の達成度を測ることが必要である。

日本情報科教育学会九州・中国・四国支部第1回研究会のご案内

日時：平成23年10月29日(土) 13:00～17:00

会場：山口大学吉田キャンパス（共通教育棟11番教室）

内容：研究発表・パネルディスカッション・ポスターセッション

※研究会の詳細は本学会支部のWebページをご覧ください。

<http://jaeis.org/shibu/>

■研究会への参加について

本研究会への事前の参加申し込みは不要です。

参加費は無料です。情報科教育にご関心のある方は、どなたでも参加できます。

皆様の参加をお待ちしております。

■研究会後に懇親会を行います（参加費：5000円）。

懇親会に参加される方は、（問合せ先）の池田宛に2011年10月19日までにお申し込み下さい。

（問合せ先）

九州・中国・四国支部事務局 池田勇（kamaken9@gmail.com）

事務局からのお知らせ

1. 日本学術会議協力学術研究団体への登録

今年、2月に提出していましたが日本学術会議協力学術研究団体への登録申請は、6月末に認められました。

2. 大学入試センター試験の出題科目についての要望書

今年3月、大学入試センターに、出題科目についての要望書を提出していましたが、東日本大震災に伴う状況の変化に伴い、追加由をつけた要望書を再提出しました（pp. 10-11参照）。

3. 総会のご案内

第4回全国大会開催中、総会を行います。会員の皆様の参加をお願いします。

日時：10月16日（日）12:50～13:45

場所：畿央大学 ホール

日本情報科教育学会ニューズレター No. 12 2011年10月07日

発行所 日本情報科教育学会事務局 <http://jaeis.org/>

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-14-2（新陽ビル7階）

TEL：03-5155-7576 FAX：03-5155-7578 E-mail jimu@jaeis.org

発行責任者 広報委員会

委員長：西端律子（畿央大学）

委員：池田勇（嘉麻市教育センター）、鹿野利春（石川県立金沢二水高等学校）、高橋朋子（武庫川女子大学）、竹中章勝（清教学園中・高等学校）、天良和男（東京都立日比谷高等学校）、中西渉（名古屋高等学校）、西田知博（大阪学院大学）、野牧賢志（日本大学）、森本康彦（東京学芸大学）